

九州電力株式会社大分支店と包括連携協定締結 「けんしんグリーンファイナンス宣言」発表

政府より発表された「2050年カーボンニュートラル宣言」「改正地球温暖化対策推進法」の成立などを背景に企業や市民生活レベルにおいても待ったなしで「脱炭素」が求められています。そのような中、けんしんは九州電力株式会社大分支店様と大分県の地方創生についてのそれぞれの強みを活かしながら連携し、地球環境の保全・持続可能な成長に取り組んでいくために包括連携協定を締結いたしました。

締結式には来賓として、県内の環境保全や地球温暖化対策部門を担当する大分県生活環境部の磯田健部長、県内の自治体で唯一「世界気候エネルギー首長誓約」に参加し、カーボンニュートラルへ向けて先進的な取り組みを進めている宇佐市の是永修治市長をお迎えしました。

大分県信用組合は「けんしんグリーンファイナンス宣言」を発表し、2030年ESG投融資目標600億円を掲げ、環境(Environment)・社会(Social)・企業統治(Governance)を考慮に入れた投融資の推進と、社会生活における再生可能エネルギー利用の推進を応援します。



けんしんグリーンファイナンス宣言

～2030年政府目標 温室効果ガス半減(※2013年)に向けた大分県信用組合の取組み～

大分県信用組合は、従来からの財務情報への着眼に加え、「ESG」を考慮に入れた投融資を推進します。

大分県信用組合は、人々の社会生活における再生可能エネルギー利用の推進を応援します。

宣言目標

ESG投融資

2030年 600億円

① ESG投資	360億円
② 事業者向けグリーンファイナンス	150億円
③ 個人向けグリーンファイナンス	90億円
	600億円

街へ 暮らしへ 気持ちいっぱい
大分県信用組合

新商品

個人向けグリーンファイナンス

けんしんグリーン化おうえんローン
ecoしま専科

- ① オール電化プラン
- ② EV車プラン

カーボンニュートラル実現に向けての社会的支援として

最優遇
適用金利 年1.00%

保証料率別金利

街へ 暮らしへ 気持ちいっぱい
大分県信用組合

熱い思いを、原動力に

- 1 特集/TOP INTERVIEW
有限会社 西工業
医療法人 新生会 高田中央病院
ニシジマ精機株式会社
- 4 キラリ、新風力 ふわり、爽風力
- 5 けんしん同友会企業紹介
- 7 けんしんTOPICS



事故や怪我がないよう徹底した管理に努める佐藤社長

右／環境配慮型のハイブリッドショベルを含め、自社で30台以上の重機を所有 左／産業廃棄物の収集運搬車。大分市八幡に最終処分場を保有

鉄骨造の建物を解体する様子

「女性だからこそ、この業界で活躍したい」と語る絢菜さん(右)

大分東部ブロック同友会

[総合解体業、産業廃棄物処理業]

有限会社 西工業

代表取締役 佐藤 宏哲氏

DATA

本社

〒大分市大字三佐1967

☎ 097-527-5223 ☎ 8:00~17:30

☎ 日曜 ☎ あり http://www.ynk.ne.jp

処分場

〒大分市大字八幡字西野稲田山788番地1

☎ 097-536-0632 ☎ 8:00~17:00

次世代へ繋ぐ資源・人材を護る 総合解体企業

昭和63年に、会長の西和夫氏が創業した。もともと「建てる」側に携わっていた西氏が、建設需要の落ち込みを見据えて「壊す」側に転換。解体業をメインに、現場で発生する産業廃棄物の運搬・処理までを一貫して行える体制を整え、今日まで成長を続けてきた。そして10年余り前、西氏からバトンを受け継いだのが社長の佐藤宏哲氏だ。自社で30台以上の各種重機を所有しており、解体できるものは倉庫のように小さな物から10階建の大きなビルまで幅広い。そのため依頼主も行政や民間企業、個人客もいるというほど様々だ。佐藤社長が心にかけているのは、解体現場をゴミ一つ落ちていない美しい更地に戻すこと。それ以上に気を配っているのが「従業員の安全第一」だと、まっすぐ、真剣な眼差しで語る。そのために習慣化しているのが、毎朝の

朝礼である。1日のスタートは会社で全員が顔を合わせることがルール。皆で現場ごとの危険予知ミーティングを行い、会長・社長が責任を持ってそれを把握する。さらに終業時にも、進捗状況の報告を徹底している。佐藤社長は日中、できる限り現場をまわり、自分の目で安全を見守っているという。「解体の現場には、図面から判断できない危険が常に潜んでいます。そのため計画通りにいかず、現場で作業員の状況判断に頼らざるを得ないことも多い。だからこそコミュニケーションが欠かせないのです」。近年増えているのが、家主の高齢化や建物の老朽化に伴う戸建住宅の解体依頼。いざ取り壊しの日になると、何代にも渡って受け継がれてきた家が解体される様子を、感慨深げに見つめる老夫婦もいるという。そんな姿を見て、「新しいものを作るために

は、必ず壊すという行為が必要。我々の仕事は、未来に繋がる何かのきっかけになることだ」と感じているという。自社の未来はどう見据えているか？と問うと、解体業は3Kで若い世代には人気がない。だからこそ若い世代も安心して仕事ができるよう安全第一に取り組んでいる。また、近年では解体業者の増加に伴う産業廃棄物の不法投棄増加も問題視されているなか、最終処分場を備えているのが自社の強みであり、地球という資源を次世代に繋ぐ大切な役割を担った仕事だと感じている。という佐藤社長。その背中を追ひ、4年前には長女の絢菜さんが入社してきた。今ではビジネスパートナーとしてまで成長した絢菜さん。「今後は私が後を継ぎたい」と頼もしく語る後継者の目は力強くキラキラしており、会社と地球の未来を見据えている。

常に最善を尽くし 地域医療を機能させる

豊後高田市の基幹病院である高田中央病院を運営し、近年はへき地診療や介護事業所を精力的に展開している。高田中央病院には、1日400人以上もの患者が訪れる日もあり、その数字が地域から頼られていることを物語っている。病院としての原点は、昭和44年に故・松本親名嘗院長が開業した松本病院。整形外科の単科だったこの病院に昭和57年、内科医として着任したのが瀧上茂氏である。当時のこの地域には病院自体が少なく、様々な疾患に対応できる医療体制が整っていなかった。そのため患者は地域外まで出かけるのが当然のこと。自身も専門外の分野まで診察していた瀧上氏は、「地域医療の機能を果たさなければ」という強い使命感に駆られ、診療科の増設に尽力。大分大学をたびたび訪問して協力を求めたところ、幸い多くの教室から応援を得ることができ、次第に科目が増えていった。今では診療科が22科目に。2度の増改築を経て、病床も149床を備えている。「地元で様々な診療が提供できることはもちろん、大病、難病の患者さんが大きな病院から地元に戻ってきた時にも治療がフォローできるよう万全の体制を整えたかったです」と、瀧上氏は当時の思いを振り返る。さらに、行政とも密に連携。市や医師会など

豊後高田市同友会

[医療、福祉]

医療法人 新生会 高田中央病院

理事長 瀧上 茂氏

DATA

〒豊後高田市新地1176-1

☎ 0978-22-3745

☎ 8:30~12:30、14:00~17:30

※木・土曜は8:30~12:00

☎ 日曜、祝日 ☎ あり

https://takachuo.com

とタッグを組んだ「ヘリコクター・ピロリ菌プロジェクト」では無料で検診を行うなど、常に地域医療の最善を考えてきた。また、過疎・高齢化が進む地方で医療と切り離せないのが介護福祉の課題。介護保険法の制定後は、介護福祉サービスの必要性を感じ、有料老人ホームや通所リハビリテーション施設、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所などを次々に立ち上げてきた。平成23年にはへき地医療拠点病院に指定され、その2年後には認知症の早期発見に繋げようといち早く「もの忘れ相談室」も新設している。そして現在、最前線で向き合っているのが新型コロナウイルスである。病院の敷地内に、一般外来患者との動線を分けた発熱外来を設け、毎日抗原検査に対応。今年4月にワクチン接種が始まってからは、「スピードが先決」と、週6日、1日100～200人の接種を行っている。

積極的な事業展開に、「職員がよく頑張ってくれる」と労いの言葉を口にする瀧上氏。すでに女性の活躍推進を厚労省が認定する「えるぼし」に輝いているが、今後も「職場環境の改善に力を入れていきたい」と意欲をのぞかせる。世間では「住みやすいまち」と呼ばれる豊後高田市。その「住みやすさ」のベースには、新生会の貢献がある。

世界初の自動痰吸引器（トクソー）技術株式会社）の開発にも携わった瀧上氏

豊後高田市の中心にあり、昭和の町に隣接する高田中央病院。2025年問題が迫りさらに病床を増やす必要がある



供養盆踊りに参加する瀧上理事長



へき地診療に臨む瀧上理事長。診療状況や薬の内容を共有できる包括ケアシステム「高田安心ネット」の構築にも貢献



令和元年に創立50周年を迎えた。高田中央病院という名前は、平成14年の改称時、職員からの公募で決定した



新工場の完成予定図。眺めのいい場所に休憩スペースを設けるなど、従業員が過ごしやすい環境を工夫

経営者としてのバイブルは、池井戸潤氏の小説。「会社の伝統を継ぐことに負いはない。周囲の人々を大事に、経営を楽しみたい」と語る西嶋社長

佐伯地区同友会

[金属加工業]

ニシジマ精機株式会社

代表取締役社長 西嶋 真由企氏

DATA

〒 佐伯市大字戸穴469

☎ 0972-27-6633

🕒 8:00~17:00

📅 土・日曜、祝日 📍あり

http://www.nisijima.jp

モノづくりの伝統を糧に夢を見ることも忘れない

造船所や鉄工所が立ち並ぶ佐伯市の海岸沿い。ニシジマ精機は、小さな臨海工業地帯をなすその一角に本社・工場を構えて70年余りになる。技術者だった初代が、地域柄、船舶エンジンの修理業を始めたことに端を発し、やがてセメントや造船工場からの依頼を受けるようになった。その当時から受け継ぐ製鉄関連機械の部品加工・組み立てを主力業務としながら、3代目社長の西嶋真由企氏は、様々な分野への挑戦を続けている。

挑戦の原動力となっているものが二つあ

る。一つは「失敗」。今から30年ほど前のバブル崩壊期、業務の100%近くを大手企業の下請けに頼っていたことがある。特殊な技術を誇っていたからこそその強みではあったが、それが裏目に出て、景気の低迷とともに発注がゼロになるという危機を経験。その頃に入社した西嶋社長は、「一つのことには特化するのではなく、リスクを分散するべきだ」という教訓を得た。そんな失敗をバネとする二つ目の原動力とは「10年後も会社を存続させ、発展させ続ける」という思い。リスクを分散するためにも惜しま

なかったのが、大型機械を購入するなどした投資。3D加工が可能な五軸加工機は、九州で2台目の導入事例となった。これを機に、新たに半導体装置の部品加工に着手。さらに平成30年には、九州工業大学と大分県内の中小企業4社で挑んだ小型環境観測衛星「てんこう」の開発プロジェクトに参加して、みごと打ち上げに成功した。その実績を糧に、現在は航空宇宙業界にも幅を広げつつある。「長く受け継いできた技術はもちろん大切にしながら、夢を見たい。新しいことにチャレンジしていくモノづくり企業でありたいですね」と笑顔を浮かべる西嶋社長である。

そんな経営者の夢は、多くの若者を魅了しているようだ。たくさんの企業が人材不足にあえいでいる昨今、ニシジマ精機の工場には若手エンジニアの姿が多い。70代のベテラン技術者も抱えつつ、平均年齢は38歳だという。「若い人材を呼ぶためにも夢のある面白い仕事をしなければ。適材適所に人材を配置しながら、やり方を任せられることも大切にしています」。

6年前、縁あって大分市内のメンテナンス工場をM&Aで取得。主力業務の製鉄関連機械は部品の加工・組み立てからメンテナンスまでを一貫して行えるようになった。そしてまでもなく、大分流通業務団地内に新工場も完成予定であり、新たな雇用にも繋げる。「これからも夢を見続け、いくつものステップを踏みながら、大きくジャンプしたいと思っています」と西嶋社長の夢は広がる。



初代が建てた工場に増築を重ね、現在も受け継がれる本社・佐伯工場。2交代制で納期までのスピード感も叶える



高炉で使われる部品をメンテナンスする様子。全国各地から依頼が舞い込む



難しい加工をこなせる五軸加工機を扱う若手エンジニアの様子



株式会社 ガブ

代表取締役 永松 陽子さん

阿蘇野の天然炭酸水を使用した「ラ・グレース」は、国内トップクラスのシリカ含有量を誇る



DATA

[美容業]

株式会社 ガブ

〒 大分市京ヶ丘南1-8-1

☎ 097-520-8500

🕒 10:00~18:00

📅 日曜 📍あり

https://www.gab-lagrace.com/

外側も内側もトータルに「美」を提供していきたい

パークプレイス大分の南、京ヶ丘に店を構える「ild'or (フィールドール)」は、美を外側からも内側からも追求していくサロン。「髪を切りに行く場所」という常識にとらわれず、独自の理論に基づいたカット、パーマ、カラーの施術から頭皮・肌のエステやカウンセリング、健康リスクを測定できる毛髪ミネラル検査まで、幅広いサービスを提供している。この夏には、明野に新店舗をオープンする予定だ。

以前はカウンセラーとして活躍していたオーナーの永松陽子さんが、美容業界に進出したのは2013年のこと。起業のきっかけは、「人材に投資しなかったから」。美容室の立ち上げから商品開発まで、多角的な経営を夢見る人材との出会いがきっかけだった。そして美にまつわる様々な事業プランを描く中、最初に実現させたのがスキンケアブランド「ラ・グレース」の商品化

だ。かねてから水に興味を持っていた永松さんは、あるとき、由布市阿蘇野に湧く天然の炭酸水と出合った。調べてみるとそれは、ほとんど手を加えずに化粧品として使えるほど良質だと分かり、これをベースに天然シリカ化粧水、クレイクレンジング、モイストプロテクトジェルの3種を開発。これが2年連続でジャパンメイド・ビューティーアワードを受賞し、ECサイトで好調に売上を伸ばしている。2年前からは、九州大学大学院との共同研究に着手。阿蘇野の炭酸水をさらに美と健康に役立てるべく、エビデンスを積み重ねているところだ。

今後はパッケージにも自然由来のものを使うなど、サステナビリティの観点からも商品開発を進めていく予定。最終的には、「飲むだけで健康になる水を開発するのが目標」と語り、東京や海外への進出も視野に入れている永松さん。その根底には、「大分のまだ知られていない魅力を世界に伝えたい」という思いがある。

キラリ新風力 New Wind & Fresh Power ふわり爽風力

愛される味と雰囲気家族で守り継ぐ

昭和55年、住吉浜リゾートパーク内にオープンし、その8年後に現在の場所に移転。守江湾を望む国道213号沿いに店を構える「元禄うどん」は、地元の人々に愛されて40年以上になる。「大分空港が近いので、県外のお客様もよく立ち寄ってくれるんですよ」と話してくれたのは、昨年、父親である先代から店を受け継いだ岡義朗さんだ。今はすっかり白衣に和帽子が似合ううどん屋の店主だが、以前はプロのウェイクボーダーとして全国、世界の大会で活躍した経歴の持ち主だ。

子どもの頃から店に親しみ、よく手伝いもしていたという岡さん。兄が宇佐に新店舗を構えていることから、10年ほど前、父親のもとで本格的に修業をスタートさせた。守っていききたいのは、変わらない味、そして変わらない雰囲気。店は自分と妻、まだま

だ現役の両親を中心に切り盛りし、メニュー一札は姉の手書き…と、隅々まで家族の愛に溢れている。

コロナ禍で飲食業が窮地に立たされているが、そんな中でも安心して来店してもらいたいと、店内の感染対策を入念に行い、除菌・殺菌効果のある機械も新たに導入。調理に使う水も安心・安全なものを使うようになった。また、以前は行っていなかったテイクアウトにも対応するなど、様々な対策を施している。しかし意外にもテイクアウト需要は少なく、変わらず立ち寄ってくれる常連さんが多いという。

名物は「味鶏うどん」。秘伝のタレを絡めた地鶏、そしてカツオと昆布から丁寧にとる出汁の旨味が心にも胃袋にもしみ渡る。伝統の味は受け継ぎながら、「新メニューの開発にも挑戦してみたい」という岡さん。「お客様がごちそうさまと言ってくれ 때가嬉しい。ずっと店を続けて行けたらそれがいちばん満足です」と、多くを望まず、真摯に店を守り続けていく。



高岡産業 有限会社

代表取締役 岡 義朗さん



杵築市の中心部から国東方面へ向かってほどなく現れる「元禄うどん」

DATA

[飲食業]

高岡産業 有限会社

〒 杵築市守江3903-1

☎ 0978-62-3838

🕒 10:30~21:00 (LO20:30)

📅 第2・4水曜

📍あり

総合複合商社 株式会社 サンキューアライズ



内外とのコミュニケーションを大切にしている石川社長。半導体や車などの精密部品をはじめ数多くの商品を扱う

サービスに磨きをかけ「ありがとう」という対価を得たい

代表の石川猛久さんが平成25年、息子の翔太さんと手を取り合い起業。現在はアイシャパングループとして、整骨院・フィットネスジムを展開する「ライフタイムズ」と「アイクリエーション」、そして「サンキューアライズ」の3社が傘下にある。猛久さんが社長を務めるサンキューアライズは、産業用部品の販売を主とする総合複合商社。幅広く高密度・高品質な製品を扱い、国内外にサプライヤー、エンドユーザーを持つ。長年製造業に携わってきた経験から知識と目利きを備え、顧客にコストダウンや効率化などを提案できることが強みだ。また、中古車の買取・販売を行う「ひなた自動車」や、住宅メーカーや建築会社と連携したリフォーム工事なども手がけている。「ありがとうを創造できる企業を目指す」という経営理念のもと、今後も付加価値の高いサービスを提供していく。



〒大分市大在北3-21-2
オフィスパレア大在北A-4
☎097-547-9889
営業9:00～18:00
休土・日曜、祝日
Pあり
https://www.39-arise.com

木造建築工事業 仲介業 株式会社 葵コーポレーション



ゴルフが趣味という小田社長。アイデアの源泉は？と尋ねると「いい仕事には遊びが必要」とのこと

家や店舗を構想しまちづくりを考える

人口約3万人を抱える大分市大在地区。その中心部に店舗を構え、建売住宅の販売をメインに手がけている。もともと不動産業からスタートし、今も有効活用できる土地を探しては見極め、購入するのが得意。そしてどんな目的で活かすのかアイデアを膨らませ、広い土地は分譲するなどして手腕を発揮してきた。さらに、「多くの人が暮らすまちには商業施設が必要」と、幹線道路沿いにはテナント物件を開発。数軒の店舗が並ぶ長屋タイプの物件には、飲食店や美容室、ネイルサロンなどが次々にオープンし、賑わいを創るとともに人々が夢を叶える場ともなっているようだ。こうした「まちづくり」の視点で事業を展開し続けながら、今後は「コンパクトで安価な家を手がけていきたい」と語る社長の小田圓乗さん。家計を逼迫しない住まいづくりを目指し、スモールハウスに挑戦していく。



〒大分市大在北2-8-30
☎097-593-2424
営業9:00～17:00
休土・日曜、祝日
Pあり

不動産業 株式会社 ホームリンク



お客様の相談に応える中山社長。「不動産の相続を受けた方、予定している方からのご相談をお待ちしています」

高齢社会にふさわしい不動産のあり方と向き合う

「ご実家を手放したいなど、相続関係のご相談が多いですね」と、最近の傾向を語る中山省悟社長。家主業を主体とする会社は、今年で10周年。この節目を機に、より時代のニーズに応じていくべく、現在はリブランディングに取り組んでいるところだ。ロゴの変更をはじめ、今夏にはホームページもリニューアル。顧客の相談窓口として機能するよう構築し直した。常々、顧客からの聞き取りを丁寧に行うという中山社長。「仲介業者として、お客様のお困りごとや不安を解消してさしあげることや、必要な知識をきちんとお伝えすることが大事だと思っています」。また、今後は高齢者の単身世帯が増えることを視野に「暮らしやすい部屋を作っていきたい」とも言う。快適性を高めるリノベーションをしながら、家賃を安価に抑えられる部屋作りを目指し、社会に貢献していきたい。



〒大分市南津留1-5
けやきビル
☎097-574-6637
営業9:00～18:00
休日曜、祝日
Pあり
https://www.homelink-oita.com/

美容業 ハツミ美容室



パーマ液の薬剤特有の匂いがしないよう心がけているという店内は、清潔で居心地の良い空間

心の通い合うアットホームな場所でありたい

杵築市山香町の若宮商店街に軒を連ねる美容室。昭和29年から営業を続けており、現在は代表の中野俊一さんが店を守っている。店は「母が創業し、昭和50年代は家族6人に住み込みの従業員もいて賑やかでした」という思い出話が続くほど、温かな雰囲気。「店を続けていられるのはお客様のおかげ。アットホームな場所で、キレイになって帰っていただきたい」と思いを語る。過疎化とともに周囲の店は減ったものの、杵築市商工会の理事を任されていたこともあり、心強い商売仲間も多い。最近、事業承継を視野に入れ始めたところだと言うが、お客様のためにもまだまだ現役が目標だ。1人ですべての作業を担当するため、接客の時間が長い。「その間にいろんな話を聞いてさしあげるのも仕事のうちだと思っています」という言葉に、“まちの美容室”としての使命がにじむ。



〒杵築市山香町野原
1766-20
☎0977-75-0175
営業8:00～17:30
休月曜、第1・3日曜
Pあり

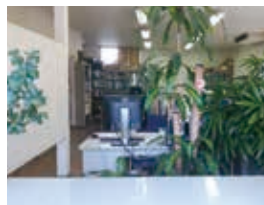
プラント設計 有限会社 豊栄プラント設計



JR高城駅の近くにある事務所。社内では技術者たちが黙々と設計を進めている

職人技と真摯な対応で顧客との強い絆を築く

昭和58年春に、大分市三佐で開設。小規模な構えながら、手掛けしている業務は大きい。都市ガス・LPガスの設備・配管や石油・化学プラントの化工機などエネルギー関係の設計に携わっている。特殊な業界で安定した業績を維持し続けているのは、身の丈に合った健全な経営を貫いてきたから。従業員全員が技術者であり、「営業活動を行わない代わりに、顧客の依頼に誠実に対応することで次の仕事に繋げてきました」と語る森田社長だ。付き合いの長いクライアントが多いという話からも、その仕事ぶりと堅い信頼関係が伺える。図面はかなり緻密な構成。創業当時は手書きだったものが、現在はコンピューターで製図できるようになり、効率も良くなっている。しかし、仕上りのクオリティは高い水準のまま変わらない。職人の技術を誇りに、この先も姿勢を変えず未来へ歩いていく。



〒大分市高松1-7-3
☎097-558-6776
営業8:30～17:30
休土・日曜、祝日
Pあり

農業 船木農園



1株食べると1日寿命が延びると言われているボタンボウフウ。商品は豊後高田市の観光スポットなどで販売している

まちの魅力を増すため農業から挑戦を続ける

以前は大分市で居酒屋を営んでいた船木育（つよし）さんが、父が育てたギンナン畑を受け継ぎ、栽培を続けている。500本ほどあるという木から毎年5トン収穫。昨年から廃業した農家の畑も引き受け、梅の栽培にも着手した。一方、約10年前に発足した「香々地ボタンボウフウ研究会」にも参加。ボタンボウフウとは、沖縄では長命草と呼ばれる薬草で、豊後高田市では海岸に自生している。研究会ではそのタネを採取して栽培を始め、お茶や粉末、シロップジュースに加工している。商品は健康志向の高まりとともに注目を集めており、先日も、ペットフードに活用したいという企業から粉末の購入依頼が舞い込んだという。常に新たなことに挑戦し続けるのは、「若者が地元に残るきっかけになれば」という思いから。これからも様々な事業に熱を注いでいく。



〒豊後高田市羽根
2144-2
☎0978-54-3511
(香々地ボタンボウフウ研究会)
営業不定
Pあり